AISEI-NEWS
35 愛整ニュース
公益社団法人 愛知県柔道整復師会
http://shadan-aisei.jp/
平成27年
2015年2月25日発行（通巻322号）

「アンチエイジング」をテーマに講演

第９回県民公開講座
第83回会員研修会

２月15日（日）午前10時から11時30分まで、ウインクあいち５階小ホール２にて第９回県民公開講座（第83回会員研修会）が開催された。今回は『「アンチエイジング」この方法であなたも10歳若返る！』と題して、つるた小児科院長・医学博士の鶴田光敏先生にご講演頂き、一般県民95名を含む252名が参加した。

細胞の老化は活性酸素の増加が要因のひとつに挙げられ、まずは食べ物で抗酸化を図ることが大切だと鶴田先生は説く。食べ物で抗酸化にもっとも有効なのは卵や牛乳などのアミノ酸である。世の中には間違った健康情報が氾濫しているが、統計に基づいたものが一番効果があるので実証主義によるEBMが大切である。卵を多く食べてもコレステロールは上がらないことが実証されているのでできるだけ摂取した方がよい。寿命や元気さは筋肉量と比例する。筋肉を増やすには、蛋白質の摂取とともに二つの運動がよい。片足立ち（60秒を１日３回）とスクワット（5回から初めて１日３回）である。また認知症対策にはインターバル速歩（ゆっくり３分→ちょっと速め３分→ゆっくり３分）を週３回行なうとよい。接骨院の先生は運動に詳しいので指導してもらうとよいと、我々にとってありがたい“宣伝”までして頂いた。

鶴田先生は最後に、①病気をきちんと治す ②禁煙 ③炭水化物を減らし野菜や蛋白質を多く摂る ④乳製品を摂る ⑤運動（インターバル速歩・片足立ち・スクワット）の５項目がアンチエイジングの重要な要素であると締めくくられた。

先生は1954年生まれの60歳だが、今回のテーマをまさに体現されているような10歳は若く見える容貌が、内容に説得力を与えた講演であった。

会場からは多くの質問が寄せられた。県民の皆さんには興味深い話題であったと思われ、公益事業としての意義が充分示された。

第２回業界説明会を開催

２月８日（日）午前10時30分から12時まで、本会講堂で第２回業界説明会が開催され、県下の個人契約者ら合わせて32名が参加した。参加者は昨年（69名）の半分以下であったが、その分参加意欲や動機が明確であったためか、聴講の姿勢に昨年以上の熱心さを感じた。

１．業界の現状と将来（森川会長）

養成学校や国家試験合格者などの推移や現状、受療委任払い制度の意義を紹介し、みんなが団結することが重要であると説いた。

２．保険取扱いには生きた情報が必要（堀保険部長）

昨年同様、会員と会員外の疑義返戻の大きな差異、本会の療養費の請求と再請求の流れなどを説明したうえで、適正な療養費の取扱いには時々刻々と変わる情報などの生きた情報が必要だと述べ、本会がトヨタ健保に対し直接請求・直接支払を行っていることなど、会員の優位性を強調した。

３．公益社団法人日本柔道整復師会の取り組み（藤川副会長）

療養費に関する厚労省の取扱いや疑義解釈に関する日整の資料を配布し、「生きた情報」の一部を紹介する形で事例を具体的に紹介。柔道整復師という資格を守っていくために適正請求を心がけてほしいと力説した。

４．職域拡大を目指して（長谷川副会長）

慰安行為などで増収を図ることは違法行為であると前置きし、公的に認められた新たな職域としての二次予防事業と地域包括ケアシステムについて紹介。両者とも組織の力があってこそ実現が可能であることや、職域拡大は柔道整復師全体の問題であることを強調した。

妹尾國彦 元理事、医療功労賞を受賞

妹尾國彦元理事（笠寺・70歳）が、第43回医療功労賞（読売新聞社主催、厚生労働省・日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛）を受賞した。この賞は長年にわたり地域医療に尽くした人に贈られる。

妹尾会員は、昭和44年４月に瑞穂区で開業し、昭和50年から平成24年までの長期にわたり本会理事を務め、保険部・広報部・学術部・総務部を担当。平成７年には県知事表彰、平成15年には厚生労働大臣表彰を受けている。

昨年９月、「常に誠意ある態度と献身的な治療で患者の信頼を集め、地域医療に積極的に貢献。父から道場を引き継ぎ青少年の育成にあたる。役員として後進の指導とともに本会の理解と啓発活動に多大な貢献をした」として本会より推薦され今回の受賞に至った。

撮影：森川会長

２月９日（月）には、県表彰式が名古屋観光ホテルで開かれた。森川会長も同席するなか妹尾会員に表彰状と記念品が贈られた。

讀賣新聞 １月29日付

アジアボウリング選手権 トレーニングケア活動報告

事業部長　小林弘治

２年に一度開催されるアジアボウリング選手権大会が、タイのバンコクで１月15日から26日まで開催され、選手たちのトレーニングスタッフとして現地へ赴いた。

全日本ボウリング協会副会長で、本会が日頃お世話になっている中京大学の北川 薫学長からのご依頼で、昨年のGW期間中に三重県鈴鹿市で行われた全日本ボウリング選手合宿に本会会員４名が同行させていただいた。その折に今回の大会への参加協力のお話を頂き、理事会で承認を受けて実現の運びとなった。私は大会期間中の１月22日（木）から25日（日）まで帯同させて頂いた。

現地では、同じくトレーニングスタッフとして帯同していた千葉県総合スポーツセンター・スポーツ科学センター助手の瀧本 未来氏と活動をともにした。二人で連携を取りながら、男女それぞれ６名の計12名の選手に対応した。試合前夜のストレッチ・ケアは深夜にまで及び、当日は早朝からの散歩に始まり、試合前のストレッチ・ケアなども入念に行なった。全日本の代表選手への対応ということで、緊張と細心の注意を要し、精神的にも身体的にもハードなサポートであったが、貴重な経験と充実した活動ができた。

結果は、男子シングルスでは山本優介選手（茨城）が優勝、女子シングルスでは石本美来選手（広島）が優勝、向谷美咲選手（千葉）が準優勝を果たし、向谷はオールエベンツ（個人総合）で２つ目の銀メダルを獲得。日本チームは金メダル２個、銀メダル２個の好成績を残し、私も少なからず貢献できたものと自負している。

このような機会を与えて下さった北川学長と本会に感謝するとともに、活動を通じて柔道整復師に対する理解度が進むよう今後も本会会員が参加できることを願っている。